

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800398		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ市川国分		
所在地	千葉県市川市国分2-9-10		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染症が始ってから3年がたち一般の方や一般企業等感染症対策に関して緩和傾向ですが、福祉業界は変わらず継続との事で感染症対策の徹底を職員一丸となり現在も続けています。その中でやはり外出などのレクが出来ていない分ご利用者様の笑顔を守る為の策としてテラスでのお茶会やミニ菜園の野菜やお花の作り施設内のレクリエーションを多く取り入れストレス発散、気分転換に力を入れ運営させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)近くに公園やスーパーもある閑静な住宅街に立地し、車いす用機械浴、死角のないリビング、床暖房、テラス、ミニ菜園等と入居者の安全と快適さを配慮した設計のホームである。2)「一日一笑」をモットーとし、入居者の笑みを大切に安心して生活していただけるよう、入居者ひとり一人のペースに合わせ寄り添ったケアの実践に努めている。3)管理者は職員とのコミュニケーションを大切にし、職員の声に耳を傾け職員がやりがいを感じられる職場づくりに力を入れている。職員の定着率の高さにもよく表れている。4)コロナ禍の時も入居者のストレス軽減、ADL低下防止とQOL向上のための支援を職員同士が工夫して取り組んできた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と市川国分の理念は、目のつく場所各階の事務所に掲げています。毎月の30分研修で理念について学ぶ機会を持ち普段の会話の中での再確認をし共有していき実践につなげています。	「一日一笑」をモットーとし、「・利用者の笑顔を大切に寄り添ったケアを提供します・小さな気付きと楽しみと自尊心を大切に、安心感のあるケアを提供します」との施設理念を毎月の30分研修などで再確認し共有し、日常のケアで実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外の掲示板にて施設内の情報を提供。現在もコロナ感染症があり外部への交流はできていませんが、通常なら町内の回覧板や運営推進会議等で、イベントなどの情報を教えて頂き参加していました。	コロナ禍の前には、夏祭りやごみ拾いの日など町内会の各種行事に積極的に参加していたが、コロナ禍で全て中止となった。回覧板や施設の掲示板に写真入りのミモザ通信を掲示し、ホームの状況や取り組みを地域の方々にお知らせする活動は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常なら定期的にご挨拶に伺い認知症の方への理解やイベントなどの参加を通じてお話させて頂きご協力を頂いていますが、現在コロナ感染症がある為チラシ等をポストインさせて頂き情報提供いたします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度行い、現状の状況報告とご家族全員や会議出席予定者に、意見徴収の手紙を事前にだし意見を伺い、出席者と意見交換や助言を、頂きサービス向上に活かしています。	前回の議事録と入居者状況、事故ヒヤリハット、行事報告などの会議開催案内レジメと日ごろの入居者の様子の写真を添えて市の介護福祉課、町内会長と家族に事前に送付し、返信用封筒を添えて意見や要望を頂くよう工夫している。頂いた意見や要望を活かしていることが議事録から読み取れる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスを行う上で、解らない事や、困った時は、介護保険課に直接伺い協力を頂いています。市川国分担当の包括へは、定期的にご挨拶に伺いミモザ通信等の情報を提供し、協力関係を築いています。	運営推進会議議事録と会議開催案内レジメ、ミモザ通信を市の介護福祉課などに届け、ホームの取り組みや状況を伝えている。不明な点等は担当者に直接うかがえる関係が築けている。高齢者サポートセンターとは空室状況などの情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様や職員を守る為、玄関の施錠は、行っています。身体拘束に関しては、研修を行い理解を深め業務に活かしています。事前回避する為の話し合いもし、基本拘束になる事はしていません。	身体拘束及び虐待防止研修を職場30分研修に組み込み計画的に年2回実施している。研修報告書に管理者がコメントを記入し、職員ひとり一人の理解認識の向上を図り、拘束をしないケアと拘束を事前回避するケアを実践している。身体拘束適正化委員会を定期的開催し運営推進会議で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い理解を深めてもらい職員とのコミュニケーション必ず取り穏やかな気持ちで業務にあたるよう防止に努めています。又見て見ぬふりをせず注意しあえるよう周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社研修や30分研修を活用し日常生活生活自立支援や、成年後見制度について学び話す時間を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や、関係機関に施設側より説明を、させて頂いてると共に、契約内容に改定があった場合は、その都度お話しさせて頂くか会えない方には、お手紙や電話で報告疑問など受付理解を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族を、お誘いしてレク時や、面会時にお話しさせて頂き意見や、要望を聞く時間を設けていたがコロナがありレクへの参加は中止、玄関での面会時と意見報告書を送り、意見交換し運営に反映させている。	コロナ禍のため、家族参加のレクなどができない中、2か月に一度運営推進会議議事録と開催案内に意見要望記入用紙を添えて送付している。また、日ごろの生活やレク・行事時の写真を掲載したミモザ通信と担当者が記入した「生活状況のお知らせ」を毎月送付し、家族に多くの情報を提供し、家族からも多くの意見や要望をいただける関係を築くよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出勤の職員にコミュニケーションを図る時間の中で職員の意見や提案等聞き反映し又、連絡ノートの活用、早急に解決すべき事案はその都度速やかに解決し業務改善サービスの向上に努めています。	管理者と職員、また、職員同士が自由に意見や提案を言い合える職場づくりに力を入れ続けている。職員の意見や提案も多く、連絡ノートなども活用し運営に反映させるよう努めている。職場30分研修も着実に実行し続けている。また、本社研修のZOOMIによるスキルアップ研修受講やマイスター制度による業務担当を給与に反映させるなど職員育成に力を入れて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々が担当を持ち業務を行うことで、お給料に反映又、当社就業規定にて、資格や本社開催の研修受講等の参加も含め定期的に公平な評価を行い向上心を持って働いて頂けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にスキルアップ研修等色々研修が充実、職員の希望で受講でき時給にも反映資格取得金一部補助もあり応援体制あり内部では、毎月30分研修を開催現場では、OJTにて指導、学んで頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市川市で行う研修会などの参加や近隣のグループホームの情報交換、他施設の見学等をさせて頂いての情報交換、ネットワークやサービスの向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人との面談を行うと共にご家族と関係者からも希望や要望など聞きお話しさせて頂き思いを十分に把握したうえで安心確保への関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安や要望、苦労等話しやすい環境作りをしゆっくり聞いています。本人にとってどのような支援が大切かを共に考えていく姿勢で安心して頂ける関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時確り本人や家族の思いを把握し必要とされる支援を見極め出来る限りのサービスをさせて頂くよう努めています。必要に応じて他の事業所に繋げる等の対応もさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを出来る限り取りながら職員は、第二の家族として接し、家族と思ってもらえるよう努めています。本人が得意な事を活かした作業を共に行い(掃除、調理、工作)等、信頼関係を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるご家族が多く、時間を少しお借りし、利用者様のご様子等を伝え、思いや要望を伺っています。利用者様に変化があればその都度連絡し、毎月生活状況報告書も送らせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様は、地元の方が多く近隣の公園のイベント等に、積極的に参加させて頂き馴染みの人等の関係が、途切れない様支援に、努めていますがコロナの為現在、電話や手紙に代えさせて頂いています。	コロナ禍以降、近くの公園に出かけて、近隣の馴染みの方々との交流は途絶えている。じゅん菜池や里見公園などなじみの場所へのドライブや花見、また、主に兄弟姉妹や趣味の友人との電話の取次ぎや携帯電話のお手伝いなどと馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性など把握し席の配置を工夫、利用者様同士関係が上手くいく様職員が介入、レク全般を1、2階合同で行い利用者様同士楽しめる時間を作る事で関わり、支えあえる支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	色々な事情にて退居になってしまった方へは、月1回程ですが、不安や苦労は、無いか尋ね相談に乗らせて頂いています。最近では、退居された家族の方から電話頂きフォローさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら思いや希望、意向等把握し出来る限り反映できる様努めている。思いを上手く伝えられない方は行動や表情から見極め家族から情報を得て本人本位に近づける様検討。	入居前に食事、排泄、入浴などの自立度や行動上の問題点などのアセスメントを実施し、「自分のことは自分でやりたい」「楽しく過ごしたい」などの本人の希望を聴取している。入居後は原則6か月ごと、また、入退院時、ADLの変化が見られた時には、随時、アセスメントを実施している。居室で一對一になった時や、手伝いをお願いしている時に、思い出しでコミュニケーションをとりながら、さりげなく希望や思いを聞きとり、入居者の発言や気づきを介護記録に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に頂いた情報の把握を元に利用様本人や家族との関りを積み重ねながら把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1日の動作や行動、思いや生活リズムの把握に努め日々の変化を見逃さないように、観察を行っています。又得た情報を職員間で共有出来るよう記録や申し送り、連絡ノートで伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りやミーティング時に気づきや普段と違う言動など話す時間を設け、ケアの在り方を計画作成者を中心に、スタッフと検討ご家族の意向や主治医の意見を事前に確認し介護計画としています。	入居者、家族の意向に沿って、身体面、精神面、生活面の中で、自立を促し、緊急性のあるものをケアプランの短期目標に設定している。目標、サービス内容は、入居者、家族にもわかりやすく、職員も支援しやすい具体的内容となっている。ケアプラン、アセスメント表はケース記録に添付し、職員がケアプランを意識して支援できるように工夫している。また、ケアプランの実施状況についての「生活状況表」を毎月、家族に報告し、その内容について電話等で家族の要望に応じている。	計画作成担当者主体の半年ごとのモニタリング実施と共に、職員のモニタリング参画の意識を高める仕組みづくりが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を整備、気づきや情報等申し送りや連絡ノートで共有し必要に応じて、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令違反しない範囲で、ご本人やご家族の希望に添えるような臨機応変に柔軟な、対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の530地域の参加やイベント参加への交流も多く、日々の暮らしが楽しめる支援を行うようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または、家族の意向を確認しかかりつけ医を決定。月2回の訪問診療と24時間対応の協力病院と連携を取り合い速やかに往診が、行えるよう支援。他、精神科、皮膚科、歯科、リハビリも行っています。	月2回の訪問診療時には、職員が同席し、入居者の直近の健康状態や相談事項を医師に伝え、円滑な受診支援を行っている。水分摂取量の助言や薬の剤型、便秘薬の変更、塗り薬の処置の仕方など、医師からの指示事項は、受診後、連絡ノートに転記して職員間の情報共有を図っている。また、毎週の訪問看護の際には、爪切り、耳かきの他に腹部触診や褥瘡の皮膚の処置を行い、気になる点を「訪問看護報告書」にまとめて、訪問診療時の医師との情報共有につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護を受けており情報や相談現状等看護が適切に受けられるよう密に連絡を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し情報交換を、常に行っています。又早期に対応できるよう相談に努め、入院時には、介護サマリー等の提供をしています。入院先の相談員、先生や看護師との情報交換をし、スムーズな退院が出来る様努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約提携時に重度化した場合の当施設の方針と内容について説明し、同意書を交わしています。併せて、看取りの説明や治療方針についてもご本人と家族から、同意を得ています。重度化が高いと診られた場合医師と話し合いを密にしています。	契約時に入居者・家族にホームの「重度化対応・看取り介護指針」を説明し同意を得ている。重度化した際には、家族の意向を改めて確認し、主治医と家族との相談の上、看取り介護を実施している。看取りに向けたケアプランの見直しを行い、バイタル測定回数を増やし、体交やクッション利用による褥瘡予防、声掛けと見守りによる表情の観察に努めている。連絡ノートにより、きめ細かな支援方法の職員への周知が図られ、看取り経験のない職員も不安を持たずに支援できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフの目に入る場所各フロア事務所に緊急マニュアルを置き、30分研修やミーティングなど行い迅速な対応が出来るよう備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間帯を想定した避難訓練と最近では、地震が多い事から地震想定を踏まえた訓練を定期的に行っています。近隣の地域の方には、お手紙を入れさせて頂き、協力を、お願いしています。	「消防計画」に沿って、消防立会いを含め、日中火災と夜間の地震を想定した、消火・通報・避難の消防避難訓練を年2回実施している。1階の脱衣所からの出火を想定した訓練では、1階、2階の夜勤者が役割分担をして、入居者と一緒の実践的な訓練を行っている。訓練後には、独歩できない入居者の誘導やベランダへの誘導の困難さなど、職員の反省点と課題を報告書に整理して対策を図っている。また、町会からの自然災害時の福祉避難所としての協力依頼を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様1人1人の人格を尊重しその方に、あった対応や声掛けを職員は、心掛けています。又親しみを込めたつもりが馴れ合いの対応では無かったか自尊心を傷つけて無いか振り返るようにしている。	「笑顔と自尊心を大切に、心に寄り添い安心感のあるケア」を理念に掲げている。不安を感じさせない柔らかい口調での声掛けと傾聴を心がけ、相手の発言を待ちながら、心を開いてもらえる関係づくりを行っている。テーブル拭きや洗濯物たたみなどの役割分担により、やりがいや達成感を感じられる支援に努めている。また、起床や食事の時間は、職員の都合ではなく、入居者の気分や体調に合わせて柔軟に対応し、生活リズムを尊重し、入居者はフロア、居室で自由に過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に、意思表示や希望等伝えられるようその方のペースに合わせて聞くように、心掛けています。思いを表現出来ない方には、表情などからくみ取る様にしています。又複数の選択しを提案。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣、生活リズムなど乱れない様留意しながら、ご利用者様の希望する1日が過ごせるよう1人1人のペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装や入浴後の服選びは、可能な限りご本人に選んで頂いています。自己決定が難しい方は、職員と一緒に選んだりしています。訪問理美容が2か月に1回あり髪染めや顔剃り楽しまれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1か月に1回は、食事やおやつの食べたい物のリクエストを取り職員と共同でご飯やおやつを手作りし楽しみながら召し上がって頂いています。好きな物、嫌い物禁止食は、事前把握、配慮を行っています。	ひな祭りのちらし寿司、土用の日のうなぎ、敬老の日のお赤飯など、季節感を味わえる食事メニューを用意し、食への関心を高めている。毎月のメニュー表を玄関に掲示し、家族が閲覧できるように工夫している。夕方の帰宅願望の解消と生活習慣の維持のために、みそ汁の味見や米とぎ、食器洗いなど、入居者のレベルに合わせた食事の手伝いをお願いしている。また、毎月、食べたい物のリクエストを取り、ホットプレートでの焼きそばやパンケーキを入居者、職員で楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量を記録、排泄チェックも行っている。月初に体重測定を行い増減に応じて医師に相談食事量の調整を行っている。必要に応じて、キザミや、お粥等、その方に合う方法で、摂取して頂けるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っています。困難な方は、職員の介助にて口腔ケアを行いその際口腔状態を観察し必要に応じて歯科医に相談定期往診時に診て頂いています。義歯の方は毎夜洗浄剤に浸け清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録、排泄パターンを把握し失敗により利用者様の心が傷つかぬよう早めの声掛けをしトイレにて排泄が行えるよう支援を行っています。又排泄から見える体調の変化にも留意しています。	「排泄・水分チェック表」で排尿、排便の間隔、失禁回数などを把握し、早めの声掛けを行い、トイレでの自力での排泄にこだわり支援している。また、食事摂取状況や水分補給量、下剤の回数・量など、排泄から見える体調の変化に留意して取り組んでいる。パットの大きさの変更やリハパン、パットの着用タイミングは、入居者個々の排泄状況を確認して、職員間で検討している。各ユニットの3か所のトイレには、つかまりやすい位置に手すりが設置され、職員の介助により安全に支援できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、食事量、水分摂取量の把握、体操などの声掛けを行い薬を使用せず便秘解消となるよう努めている。便秘が続く場合は、連携病院への相談にて指示を頂き薬を、処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に入浴日を伝え希望を聞いています利用者様の体調や希望に合わせて曜日の変更や時間の変更を行い希望に添えるよう支援。又入浴剤を毎日変え色や匂いを、楽しんで頂いています。	毎朝、入浴の希望を聞いて、週2回、午前中に入浴を楽しんでおり、その日の気分や体調に応じて時間や曜日の変更を行っている。車いすの入居者も座ったまま機械浴を利用して安心して浴槽への入浴が可能であり、浴槽への出入り時の介助法は、職員間で意見を出し合い、ADLに合わせて安全な支援を図っている。入浴時には皮膚の状態やすり傷、あざなどの確認を行い、羞恥心に配慮しながら、脱衣室での見守りや浴室での介助により、転倒や浴槽内での事故を防いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様個々の生活習慣に合わせ、生活リズムが、乱れない様留意しながら、自由に居室で、休んで頂いたり、休息して頂き、安眠出来るように室内の照明管理に、努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の最新情報を個人ファイルに管理職員全員が観覧、把握出来るようになっている。処方が変更した際は体調不良が無いかなを観察するよう伝え必ず声出しダブルチェックし服薬事故が無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に季節に合ったレク、体操、歌、野菜作り、など提案、1人1人の生活歴や趣味等把握し無理がない程度に楽しんで頂いている。ご自身で出来る事はして頂き自立支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染症によりイベント参加は中止しているが近隣の散歩は人通りが少ない時間に行い、その分室内レクを増やしている。又テラスでの外気浴、春や、秋には、桜や紅葉を見に自社の車で、出かけたり季節を感じて頂いている。	少人数で、人との接触の少ない時間帯に施設周辺の散歩を再開している。医療機関への同行時や自宅への日帰り外出時には、感染対策を家族にお願いして実施している。また、近隣のさくらの名所へのドライブを再開し、車窓から季節感を味わい、気分転換を図っており、感染状況を見ながら、これまで行ってきた季節毎のあやめ見物や和食レストラン等への食事外出も計画されている。1階テラスでの日光浴、お茶会やミニ菜園でのキュウリ、トマトの水遣り、収穫など外気に触れる機会を多く設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品や高価な物はお預かり出来ない事になっており紛失は自己責任となる書類に署名、押印を頂いた上で本人の希望と家族の希望にて自己管理が可能な利用者様には所持、使用支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の中には、携帯電話を持っている方もおりご自身で家族に電話されています。又ご家族や友人から、手紙や電話が、来る事が有りやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者様と共に作成した作品を飾る事で暖かみのある雰囲気を作っている。季節や気候にあった温度管理や過ごしやすい生活空間を提供出来るように、常に工夫しています。	明るい雰囲気の中、気の合う入居者同士が楽しく話せるフロアづくりが見られる。相性やその日の感情の変化を把握し、トラブルを回避し、お互いに落ち着いて過ごせるようにテーブル席の席替えを行っている。また、転倒リスクや介助の必要な入居者には職員が直ぐに対応できるテーブル席を配置している。フロアには、入居者と職員の共同制作のさくら、もみじなどの折り紙や切り絵の作品が飾られ季節感を味わっている。また、玄関に近所の方の手作りの人形や入居者の制作物を飾り温かみのある場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、ソファで、くつろげる空間づくり、テラスやお庭は、出入り自由になっている。テラスには、椅子とテーブルが置いてあり天気の良い日は、ティータイムを楽しんで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の部屋として、自由に写真や、調度品を持ち込んで頂き、居心地よく安心して暮らせるよう配慮しております。各居室には、職員を呼ぶためのコールを設置されています。	思い出のある日本人形や使い慣れた座椅子、家具などが家族の協力により居室に自由に持ち込まれ、これまでの生活の継続や自分の部屋の雰囲気を感じられるように配慮している。また、折り紙やぬり絵などの自分の制作物や家族の写真が飾られ、部屋を明るくしている。ベッドの向きや高さを調整し、転倒時の保護のために床に布団を敷くなど、入居者のADLに合わせて対応している。タンス内の衣服の整理整頓や居室内の掃除は、できる範囲で、入居者と一緒に行うことにより残存能力の維持につなげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部には段差もなく車椅子や歩行器生活の方でも自由に動けるようになっています。浴室1,2階は、機械浴式浴槽を設置、居室には利用者様のお名前の表札を付けるなど分かりやすい表示をしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		現在看取りの方が2名いる状況新人職員や若手が多くなっており今後の看取り介護に不安がある。	実際終末期ケアになった時、落ち着いたケアと心に寄り添い利用者様の為に不安なく穏やかに過ごして頂けるようスキルを身に着ける。	施設内の30分研修を通じて学んで頂きシフトの調整を行い本社での研修にも積極的に参加できるよう支援する。	6ヶ月
2		世の中は、5類になっているがコロナ感染者が増えている状況。地域密着型ではあるが中々外部交流が難しく利用者様のストレスが心配。	利用者様の笑顔を守り楽しみを増やしていく。	感染症対策は、今後も継続。施設内のレクを増やしストレス解消を目指す。散歩に関しては、人通りが少ない時間必ずマスク着用にて行う。又社用車使用にてドライブ季節を感じて頂きリフレッシュに繋げる。	随時
3		最近ゲリラ豪雨が多く地域的に川も近くにあり水害の対象地になっていますが職員の認識、把握が低い。	水害対策、対応に関して全職員が把握出来るようにする。	水害の避難確保計画書類に目を通して頂き30分研修で音読、周知出来るようにします。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。